

平和文化研究 第40集 (2019年5月)

シンポジウム 都市の記憶 III

～旧長崎警察署保存と県庁跡地を考える～

質疑応答

長崎総合科学大学

長崎平和文化研究所

Cover Artwork: Seiryō Ikawa

シンポジウム 都市の記憶 III

～旧長崎警察署保存と県庁跡地を考える～

質疑応答

上菌：これから皆さんのご意見を頂戴しようと思います。皆さんこっちの方を向いていらっしゃるので、4人の皆さんと会場の皆さんが対面する形でやらせていただきたいと思います。はい、8時半までどうぞ。

質問者 A：養生所を考える会からきました池内と申します。佐古の医学校の所の養生所ですね、そういうのがあるんですけど。最後に江戸町商店街会長様と築町商店会長様にお話しいただきまして、もちろん先生方がおっしゃったことは最もなので、それは置きまして。一つは江戸町の商店街会長さんがおっしゃった、魚の漁獲高が日本でナンバー2だと、これを生かす方法はないのかということをおっしゃったんですね。これは日本でナンバー2だから、当然これはあると思いますね。だからそれは築町さんの課題かもしれませんが、せっかく日本で1番、2番というものがあるんだからそれを生かそうじゃないかっていうのは全くそうですね。長崎の魚って非常に見た目も活きが良くて立派で、すごいと思うような物ばかりですから。江戸町は昔の築地ですからね、当然船が着いた場所ですから、そういう環境もあったかもしれないってということもあって。それともう一つは発掘調査で、非常にいろんな物が出てくる。海外との関係、日本国内の仏閣とかがでてくるんですが、火事で燃えたから全部うちの中にあった物が地中に埋まってるんで。ということになるとそれを見せよう、蔵の中にしまったままじゃもったいない、全部出して見せてほしいとやはり思います。長崎は当時の世界一とまでは言わないけれど日本一、世界にも通用する町だから外国人が来ているわけですね。そういうことを考えると、当然日本一、二を争う物すべてが眠っているのではないかと、それをきちんとやるということは大事なんじゃないかと。そうすることで先ほどおっしゃった北部と南部、ど真ん中にある長崎らしさをきちんと見せていかななくてはならないというところの役割が、お二人のおっしゃったところになるんじゃないかと思います。

それから歴史的なところで言うと、実は二つほど見落としているところがあります。古い方から行きます。これは決していい話ではないんですが、一つはおそらく中世は墓地だったろうと言われています。これは何かというと、岬の丘というのは弥生時代の石棺墓が出ています。それから中世の五輪塔の発掘が複数出ています。ということはおそらく、丘の上の地域一帯が古代から中世にかけて墓地であったと。よその場所で海岸砂丘に、ば一っと何キロにもわたって墓地があったという所がありますから、民族上もそれはおそろくいえると思います。ということは、その墓地を破壊してキリスト教会が町をつくったと、それがおそらく真実であろう、ということが1点。そういう意味でも歴史の重層性というところがある。

それは何を言っているかという、一つは長崎はキリスト教が来たから栄えた町ではないと。その前から中国とか朝鮮半島とかとつながりがある。当然海上貿易があって交易があって、当時の中国宋の時代、唐の時代まで遡るのかどうかはわかりませんが、陶器が出ているわけですから当然交流があって交易がかなり盛んだったと思われる。そこにカトリック教会が来て、町建てをして新たな町に立ちあがった、ということなので、昔のストーリーもあるので。

それからもう一つは日本開国ということですね。この長崎から日本開国が発祥している。横浜はペリーが来て、横浜から日本開国ですよ。それは当然オランダとの関係から蘭学が出てきます。日本が唯一の世界との交流地点ですから、全ての情報がここに集まってくる。そこから御朱印船貿易とも関連があるんです。そういった中世からの日本の蓄積と、鎖国と言われる体制で長崎に情報が集約される。そこで、海外の窓口、何でも情報が入ってきて、政治のことや武器のことが全部来るわけですね。おそらく民主主義みたいな考え方も入ってきたんじゃないかなと思います。そこで当然江戸幕府と長崎が相互の話し合いで、開国が実際どうしたらいいかということで起こってきたということだと思います。この二つはやはり重要だと思います。ですから開国というストーリーは日本遺産には十分なと思うし、私は世界遺産でもいいかなと思います。これは何かというと、日本の開国というのは世界から言うと東回りと西回りが最後にやっと出会う、そういうこともあっていろんな生かし方がある。そのなかで何か特定の物を、例えば教会であるとか、最後の西役所の再建という手もある。石垣と様式が一致するという意味においてですね、これがとは言いませんけど。そうすると和の空間とかいろんなものがある。それからもうひとつは皆がたむろするような空間を作らなきゃダメ。常時人がいないとダメなんだと。昼も夜もいつもいてほしい、そういうことだと思うんですね。そういう物をどうやったら作れるか、そういうテーマじゃなかったかなと思いました。以上です。

上藺：ありがとうございました。はい、どうぞ。

質問者 B：被爆者の末永と申します。被爆者の立場からちょっと。私が以前やっていたんですけど、旧市街を案内する時はどこから行くかっていうと、出島から出発して長崎警察署を見ます。それで県庁の慰霊碑を見ます。それから新興善小学校、これはちょっと一部分でも残してもらいたいということで証言の会などで取り組んだけれども、行政はなかなか一人も残さずにまがいものを残していますよね。だから行政に対して我々は本当に物申していかなければいけない。その新興善を見て、それから桜町小学校の木を見て、そして県立文化博物館裏の防空壕を見て、これが旧市街の遺跡巡りの一つのパターンじゃないかと私は思います。旧市街に焦点を当てるならばそういうことも考えていかなければいけない。それから長崎警察署の問題は山田先生が言われましたけども、バークガフニさんがぜひ保存しなくてはならないと声を挙げられましたので私も一回投書したことがあります。ちょっとこれを見てください。これは警察署の望楼から見たキノコ雲です。これは鑑識課におられた立山の蒲池さんが描いた物です。探せばいろいろ出てくると思います。もちろん新興善も桜町も重要な建物は全部疎開になりましたね。それであそこの天主堂のこちら側の今公園になっている所、あそこが疎開地になったからあそこに原爆の火が止まったということもあります。そういう訳で、県庁跡を保存してこれを公文書館にするとか歴史資料館にするとかいろんな意見が出ましたけれども、ぜひ保存と同時に市民の声を集めてあれを活用したい。それを中心にしながら他の意見もあろうかと思いますが、人を集めるということをしてい

かなくってはならないと思います。あれは本当に貴重な建物で従来から私たちは声を上げていますがなかなか行政は言うこと聞かないので、もっと我々が一致団結する必要があると思います。以上、被爆者の立場からでした。

上藺：ありがとうございました。他に。はい、どうぞ。

質問者 C：横瀬と申します。今日は縦横に話をさせていただいてありがとうございます。自分の商店街の提案ですが、とにかく住民の声を聴けと。それから朱印船貿易の話ですね、全く忘れていました。非常に大事な提案だと私も思いました。私が今腹が立っているのは、県知事や市長があそこを発掘調査しても大した物が出てこないからさっさとホールを造りましょう、この話を3月までにまとめるという報道ですね。これは私、頭にきています。今お話をいろいろ聞いて、発掘しても大した物が出てこないみたいな話を野放しにしてはいけないんじゃないかと。それから3月までに県と市の構想を固めるという乱暴なやり方、これは許してはいけないんじゃないかと、今二つ思っています。とにかくアクションを起こさなくてはならないとおっしゃっていたんですけども、今日に見える行動をしなければいけないと思いました。私の思う活用方法の一つですが、江戸町海軍伝習所と医学部伝習所が西役所の中にあっただけというところに非常に関心がありまして、それにつながる、特にあれは医学の伝承だけでなく前出島からの流れ、日本に西洋の学術・文化が入ってきた流れの結節点にあるわけですね。そういうところで国立医学博物館でも造れということを私は肩入れしています。共通しているのは、あそこは歴史的な資料の展示をする場所として有効じゃないかといろんな角度から言われているので大いに一緒に論議していきたいと思っています。ありがとうございました。

上藺：ありがとうございます。他に。どうぞ。

質問者 D：私はかつて大浦中学校の7つの連合会で連合自治会長をやっておりました。地元である小島療養所に由緒ある医学の発祥の地という歴史をほとんど知らなかった。そのことによって今はもう破壊寸前という時代です。ここに学校建設ということでこの反省に立って療養所等の遺跡保存を実現する市民の会の一員として頑張っています。昨年11月19日は県庁舎跡地に国立近代医学歴史資料館の建設を誘致するよう長崎県知事に要望したところでした。国にはどうされたんですかと副知事に言われたのでこれは行かねばならんということになって、12月18日に急きよ5人で文化庁の方にも行きました。その足でオランダ大使館にもご指導とご支援をお願いしてまいりました。特にオランダ大使館に行った時には、江戸町商店街に貼ってあるタコノマクラ、行く前まで私はあれを実際知らなかったんです。あれのタオルやてぬぐいがあったんでそういうのをお借りして、オランダ大使館にも鎖国時代から今日まで江戸町商店街は営々とこの問題で継承して頑張っているんだと話しました。今年1月21日から月末までオランダ大使館の参事官も長崎に来るということで、長崎の問題についてそういう段階で十分調査をしたいということでしたので。発進はしたけれどもこれからどうしていくのかということで、いろいろ今日は知恵を貸していただきました。そういう点で私たちも単に国立近代医学資料館という分野だけでなく、もっと広い県民の総意に基づいて活用できるように。そのためには正確に発掘調査をやって、何があるのか、それに基づいて正しい活用を見出していくというのが申し出の趣旨でしたので、これからい

ろいろ教えてもらって、私共も今度だけは悔いのない運動をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

上藺：今日お話しいただいた4人の方も付け加えなり、他の方に訊くなり、どうぞなさってください。

質問者D：三瀬さんの所のタコノマクラは商標登録をされていますよね。その理由と、おくんちのたびにてぬぐいを作っておられたようなんですが、歴史的な経過を全く知らなかったのも、これを機会に教えてもらえればと思って。

三瀬：今度うちにおいでください。他に皆さんいろいろご意見があるみたいですから。

上藺：他に。はい。

質問者E：さっきの建造物の話で、南山手のマリア園を森ビルが買うということで、あそこがホテルになりますよね。あの周りは洋風建築物がいっぱいあるんですが、ほとんど廃屋になっているっていうんですね。それは一体どのように思われますか？

山田：ちょっといいですか。私は、長崎生まれじゃないので、こういう時に言い控えてきました。今日、私は旧長崎警察署話をしに来ました。それは建物が無くなっちゃ困るからなんです。どうして皆さんそうだって言わないのかなって。山手も大切ですけど、あっちはいいんです。すでに守られているんですから。洋館が廃屋みたいになっても守られています。文化財でちゃんと網がかかって守られています。この警察署は今何にもなっていない状態です。こういうときに気持ちが一いつにならないのが長崎の弱いところなんです。皆さんの意見はそれぞれ正しいです。でもこういうときに、旧長崎警察署を残そうと、どうしてまとまらないのかなって思うんです。ちょっと怒ってもあるんです。何で皆さんバラバラなのかなって。長崎はとっても良い所ですけど、何で気持ちが一いつにならないのかなって思います。

質問者A：はい。おっしゃる通りだと思います。第三別館で先生方がおっしゃったんで私も言わなかったんですが、これだけあると登録文化財とか県の臨時の仮支店とか日本重要文化財とか、そういう方向性がはっきり出てくると思うんですね。だから、保存の行政というか法律上の手続きに向けてきちんとアクションすべきだと思います。もう一つは当然それだけでなく市民のたくさんの声が必要です。その両面があると思いますから、一つは法的な措置、行政措置としてきちんと保存していく。これだけ根拠があればそういう主張ができるはずですね。そのために根拠を作ってもらってるんですから。学術的な基盤が整ってきているわけですから。

山田：今おっしゃられたことは、いずれもやってきました。県にはちょっと待ってくれと言われている状態です。それでも建物が無くなっちゃいそうなので、この半年一生懸命動いたんです。

中嶋：山田先生もおっしゃっていましたが、私は第三別館を壊さないって聞きました。残すって。た

だ用途が決まってないって。

山田：だから今ちょっとゆっくりしてるんです。

中嶋：博物館とか医学史跡とかっていうのもいいのですが、それは皆さんの一つの物の考え方で、私は商売人ですから人が来る博物館でないとダメだと思っています。町づくりのなかで話しているわけですから、やっぱり県外の人や外国人が興味を持って、そういうものができるのだったら行ってみたい、長崎に行ったらぜひあそこの博物館に行ってみたい、そういう場所にならないといけないと思います。稀なレアな人が行くような博物館を町なかに造るというのはあんまりいいことじゃない。朱印船ということですが先ほどどなたかが言われたように、長崎人はもうちょっと自分の歴史について関心を持って調べてもらいたい。この本を宣伝するわけじゃないですけど、原田博二さんがこんな立派な本を書いてるんです。ものすごくよくまとまっています。これ一冊読めば大体長崎のことがほとんどわかります。朱印船の遺物というのが日本中あまり発見されていません。この間たまたまネットで日経新聞の記事を読みました、大阪の堺港でベトナムの壺のかけらが出たと書いてあり日本で最初の発見だと書いてありました。でも長崎のこの界限では珍しくなく発掘されます。だからいかに長崎市が今まで発掘した遺物が本当に日本中のなかでも価値がある物かどうかというのがわかりますし、もう少し皆様が勉強してそういう物を展示したら、わざわざ来ますよ長崎に。だから自分の町をもっと知ってもらいたい。先日たまたまテレビで見てびっくりしたが、神田の神保町の浮世絵屋さんでドイツ人が1枚80万の浮世絵を買っているのですね。しかもその人は浮世絵の価値を知っている。日本人以上に日本の文化を知っている。長崎人はもうちょっと長崎の歴史文化というのを勉強しなきゃダメだなっていつも思っています。そういう意味で朱印船貿易っていうのは長崎でしか語れない博物館ですから、ぜひ前向きに考えていただきたいと思います。

三瀬：今、中嶋さんの話は歴史をもう少し勉強しようという話でしたけれども、長崎はもっと地産地消というのを皆さん方と一緒に大事にしなければいけないと思います。先ほども水産県の話もしましたが、長崎の、例えばお茶ですね。皆さん例えば会議なんかに行かれるでしょ。するとよくペットボトルが出てますね、一本ずつ。昔はお茶でしたけれど今はもうペットボトル。あれほとんど大手のメーカーの商品ばかりです。彼杵辺りではメイドイン長崎のペットボトルがあるんですが、ほとんどの会議室では出ていない。そのことを一度私は新聞社に投稿しました。それでたまたま長崎商業振興課の課長さんとも会ったこともあったので、その話をしたんです。とにかく会議では長崎県産品を使うようにあなたの方で奨励してくださいと、ほとんど使われていませんよと。するとそのように指導しますからとおっしゃったけれども、相変わらず大手のメーカーのが、昨日のテレビを見ても必ず並んでいる。もっと地元の商品を生かしてやらないと、せっかく長崎には名産品があるんですから。それを私、歴史を大事にしようというお話と関連して、地元から出てくる商品をとにかくかわいがってやろうという気持ちが私は欲しいと思います。よろしくお願いします。

上藺：旧長崎警察署ということで、お願いします。

質問者 F：原爆遺構を保存する会の竹下芙美と申します。皆さんのお話を聞いて、私もずいぶん前から保存に前向きに考えているんですけども、私は原爆遺構を保存する会という立場であの第三別館の中で行われていた、強制連行に連れてこられた中国人たちが酷い拷問をあそこで受けたという証言をしてくださった方の聞き取りもしておりますし、そういう意味では被爆遺構として保存したいという気持ちはとても強いんです。ただここで商店街のお二人の話を聞いてみると、私の方も大事ですが本当にそうだなと思って。鎖国時代にいろんな物が長崎を経て日本に広まっていったんですよね。どういうわけか長崎の人はそういうことを自慢にしないんですよ。たとえばコーヒーが長崎から出てきたとか。汽車も長崎から出たとか。いろんな物が長崎から出たんだけど、そういうのを自慢にしない。割と知ってはいるけどそれを人に話さない。中嶋さんがおっしゃるように、もっと勉強もしないといけないし伝えていかなければならないと思っています。そして第三別館を生かすには南と北の中間地にあるわけですから、観光船も出島に入ってきますので、もちろん県内市内の観光客の観光の案内もする。それから物産館が駅前にありますけれども、おっしゃるようにはあまり知られていない。なんとなく入りづらいという感じがありますので、物産館もそこに造ったらどうかと。私は長崎育ちですから、やはり長崎がどんどん廃れていくのは寂しいです。今、大村とか佐世保の方にまで〇〇しつつありますので、人をたくさん集めて毎日でも行ってみたくなるような建物にして残していきたいと強く思っております。ありがとうございました。

上 菌：旧長崎警察署に関して、はい。

質問者 G：私、山田先生の話に共鳴しているんですけども、その件については長崎県の県議会の議員をやっていたら浅田すみさんがここにみえていらっしゃいます。県の現在の状況はどうなっているのか聞いた方が…。

上 菌：すみません、それに関してやりだすともう時間ないので。そして、県議がどうという話になるのはできれば避けたいと思います。

質問者 G：現在の状況はどうなっているかは私としても知りたいわけですよ。個人的に聞けばいいじゃないかっていえば、それでいいんですけど。

上 菌：はい、お願いします。

質問者 H：旧長崎署の建物について質問したいと思います。1923 年っていうのは 7 月 21 日号だという事ですけどもそれから 2 か月弱後に関東大震災が関東で起こりまして、東京にたくさんあったレンガの建物が軒並み崩れてしまって、あれはダメだという感じになってきてということなんですけれども、1923 年の鉄筋コンクリートって割と地味というか派手派手しくないデザインというのは世界の近代建築っていうものの先端だったという説明だったと思うんですが、デザインだけではなくて、原爆が落ちてもし焼けずに残ったというのも私は注目したいんですけども、その 2 年前に建てられた県庁 2 階建て、あれは鉄筋コンクリートですか？それともレンガですか？

山田：鉄骨レンガ造と言っていいんじゃないですか。

質問者 H：あちらは見事に消失してしまって、骨組みは残ったんでしょうけど壊れてしまって。よくぞ残ってくれたものだ。それを建築学上理由付けすることはできますか？

山田：今の問いは、なぜ県庁は燃えて警察署は燃えなかったのかという質問でしょうか。私もずいぶん考えました。想像するに、多分警察署の中には火が入らなかったんだと思います。おそらく県庁の方は中に火が入ってしまったので（会場の御教示によると、周囲の木造住宅が燃えた輻射熱で発火したそうである）、いわばレンガの釜の中で火を焚いているようなもので、ものすごく燃えて、しかも高熱になったと思います。全国の鉄筋コンクリートの同時代に残っている物は、焼夷弾が落ちてくるので一生懸命水をかけたとか、いろんな証言が残っている。この警察署についてはそういうものが残っていない。爆風で窓は全部割れたと記録にあります。ですが、なぜ火が入らなかったのかはわかりません。逆にそれは当時の被害状況の、なぜ火が回らなかったかっていう新しい根拠の一つになるのかなと、今回取り組んでいました。

質問 H：被爆して残った建物っていうのは、城山小学校が白亜の殿堂と言われたような所がきちんと残ってしまして、きちんとと言ってもかなり被害はあったと思うんですけど。それで、ちょっと離れた長崎警察署が残っているのは偶然ではなくて、長崎の精神性と建築上の何物かが言えるのか言えないのかなというのを、ちょっと素人ながら考えていまして。

山田：精神性のことはよくわかりませんが、実際建築した橋本組を私は今調べています。当時、長崎に橋本組という会社はない。全国で調べると、大阪に橋本組という鉄筋コンクリートを早い時期に得意とした会社があったそうです。もしかすると橋本商会の橋本さんと関係があったりするのかなと想像は膨らみます。施工者がわかると、なぜあんなに頑丈にできたのかっていうのもわかるかもしれません。

質問者 H：人的な進展のところを押さえていただけると嬉しいなと思います。

上薊：他にございますか。はい。

質問者 I：最後になると思うんですけど。私は、今日は第三別館をどうしても残してほしいという思いが強くて来たんです。いろんな被爆遺構が潰されていますよね、新興善もあの状態で。私達もずっと運動してきたんですけど、今日もお話を聞いているうちにこれだけ貴重な物だとだんだんわかってきて、黙っちゃおれないと思ってきました。あと県庁跡地の問題は、私市民劇場に入っていてホールが欲しいってもう何十年も言ってきたんですよ。でもそれは、絶対警察署跡地じゃないといけなくてわけじゃないし、御朱印船のことも必要でいいな、建てることもいいなとは思っているんですけど県庁

跡地じゃないとダメっていうことでもない。だから言いたいのは、住んでる住人が豊かになる、先ほどもあった、常時人が集まる場所や利用する場所、やはり住んでいる人たちが気持ちよく生活できる一つの憩いの場になってもいいと思います。お客さんを呼ぶのもいいですけど、それこそいつも安定してる状態じゃないですよ。だからまず住民の意見、こういうのがあるといいなという声を聞いてほしいなと。私達住んでいる人間が発信して、県庁跡地をどうしてほしいっていうことを言っていないといけないかなと。住民の声をやはり聞いてほしいです。

上菌:ありがとうございます。もう時間です、私がまとめなくても、今まとめていただいた気がします。

1. 旧長崎警察署は、ぜひ保存しよう！ただ、2. 住民の意見を聞きながら県庁跡地を考える、それがとても大切だと、この2点でこのシンポジウムのまとめにさせていただきたいと思います。長崎平和文化研究所はこの課題について、さらに議論を進めていきたいと思います。案内を差し上げますので住所氏名メールアドレスを書いていただくと、今後の案内を差し上げることができます、よろしくお願いいたします。部屋いっぱいの多くの皆さんにお集まりいただいて、いろいろ議論いただき、ありがとうございました。